



TITLE:

1982年度 物性若手夏の学校報告

AUTHOR(S):

CITATION:

1982年度 物性若手夏の学校報告. 物性研究 1983, 39(5): 263-264

ISSUE DATE:

1983-02-20

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/90827>

RIGHT:

小森文夫（東大・理）

「微粒子薄膜の電気伝導」

26日 古林孝夫（東大・物性研）

「アモルファス Si: Au の電気伝導」

参加者数は、最初40人程であったが、2番目の講演からは、25人程に減った。

今回はテーマを絞りすぎたためか、出席者と発表者の議論がそれほど充分でなかった（質問した人は4人位）事および、与えられた時間が二日と短かったにも拘らず消化し切れなかった事が反省される。

最後に、講演を引き受けて頂いた発表者の方々、準備に当って協力して頂いた方々にお礼を申し上げます。
（世話人、京大理 田崎秀一）

サブゼミ－格子欠陥 「格子欠陥のトピックス」

発表者（発表順）と発表題目

山本良一（東京大学 工学部）

：金属中の格子欠陥周囲の原子振動及び電子状態

伊東雅宏（東京大学 理学部）

：固体ヘリウム

江澤正思（大阪大学 基礎工学部）

：希薄合金の電子照射損傷と点欠陥－溶質原子相互作用

紀 隆雄（広島大学 理学部）

：電気抵抗による格子欠陥の研究

参加者数は、平均して25名前後であったが、部屋が狭く息苦しい中でも、真剣に聞いて下さいました。また、発表後長々と私たちの質問に答えて下さった発表者の皆様に心からお礼を申し上げます。
（世話人、東工大 向田昌志）

サブゼミ－光物性 「励起子とポラリトン」

講師 東北大・理 伊 藤 正

伊藤先生には、ポラリトン全般に関する講義をしていただき、若手研究者三氏に、励起子ま

阪大物性若手グループ

たはポラリトンに関する最新の研究成果を発表していただいた。また全体講義担当の張先生にはオブザーバーとして参加していただき、26日には国府田先生も飛び入りで参加された。プログラムは以下のとおり。

25日 伊藤 正 (東北大・理 助手)

講義 「ポラリトンの物性(実験的側面から)」 Part I

渡辺純一 (筑波大・物理 D1)

「表面フォノンポラリトンによるラマン散乱」

26日 伊藤 正 講義 Part II

時弘哲治 (東大・工 D2)

「Optical Properties of Exciton-Biexciton Systems」

桑田 真 (東大・理 D1)

「励起子分子の2光子生成による励起子ポラリトンの Renormalization と2光子偏光回転効果」

四氏には比較的詳しいレジメを作っていただき、参加者に配布した。参加人数は40名ほどであった(4年 2名, M1 20名, M2 7名, D1 5名, D2 2名, 社会人 2名, 先生 3名)。講義内容はわかりやすかったと好評で、研究発表にもそれぞれ興味を示している人がいた。毎夜行なわれた懇親会はすこぶる盛況で、26日には上記三先生を囲んで光物性の十年後を論ずるなど、若手同志及び先輩方との交歓の場としてもよいサブゼミであった。

最後に、忙しい中講師をひきうけて下さった伊藤先生、発表者の方々、張先生、国府田先生、及び阪大の担当者の方々にお礼を申し上げます。(世話人、東大理 石原照也、水谷五郎)

サブゼミー物性基礎Ⅰ 「ランダムと非線型」

講師 小野嘉之

参加人数 約40名

内容 石井 晃(早大・理工 D2)

「ソリトン・バグ系の物理」

黒部 篤(東大・理 D2)

「パーコレーション理論とホッピング伝導」

多田吉秀(東大・理 D2)